

総務文教常任委員会会議録

(令和8年5月22日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会総務文教常任委員会会議録

本日の会議 令和8年5月22日（金）
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	鷹野正志	副委員長	田中純樹
委員	池田栄次	委員	吉田茂生
委員	石川秀夫	委員	金繁典子
委員	中野光博		

欠席委員

なし

出席委員外議員

なし

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	土居章二	主幹	尾川美保
--------	------	----	------

説明のため出席した者

（企画財政課政策推進室）

室長	好岡英樹	主査	鶴川知也
地域おこし協力隊	柳 栄二		

（学校教育課）

課長	坂本一利	課長補佐	二神裕暁
----	------	------	------

本日の委員会に付した案件

（１）所管事務調査

□「移住を含めた親子留学について」

開 会	9時00分
閉 会	10時05分

○**田中副委員長** 定刻となりましたので、ただいまより総務文教常任委員会を開催いたします。

初めに委員長より挨拶があります。

○**鷹野委員長** 失礼いたします。皆さん、おはようございます。本日は早朝より総務文教常任委員会の協議会に出席、全員出席していただきましてありがとうございます。また、今日は説明員として学校教育課、また企画財政課の政策推進室の皆さんにおいでいただきました。どうもありがとうございます。

今日は、本議題であります、移住を含めた親子留学についてということでの机上審査を、説明員の皆さんにしていいただきまして、今後の、どういう方向で持っていくかということを協議したいと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げて、開会の挨拶といたします。お願いいたします。

そしたら早速、本題に入りたいと思います。

それではまず、学校教育課から資料を頂いております。今後、学校の児童数、その辺の資料の説明をしていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

坂本学校教育課長。

○**坂本学校教育課長** それでは資料のほうを御覧いただければと思います。

令和6年度以降の児童数と生徒数をお示ししております。令和8年度のところを御覧いただければと思います。

今年度の児童数は522名でございますが、これは当初の、年度当初の数字ですので、現在、転校・転入とかがございますので多少、数字の変動があるということは御承知おきいただければと思います。

町内10校、小学校がございます。昨年度末で篠山小学校は休校になったということでありまして、児童数が一番多いのが平城小学校の182名です。一番少ないのが船越小学校の5名ということになります。

それで、4年後の令和12年を御覧いただければと思いますが、令和12年については、予測については平城小学校がやはり一番児童数が多くて151名、一番少ないのが同様に船越小学校で5名ということで、総数が392名ということで、令和8年と比較すると130人の減になる見込みということでありまして。比較的、小規模校——極小規模校についてはそんなに、令和8年度からの増減はまあ、そんなにないところが多いのですけれども、少ない数字でずっと、ほぼ横ばいであるとか多少の微減・微増を繰り返しているというようなことになっていきますが、中心部の平城小学校であるとか城辺小学校のほうでやはりちょっと、人数の減少が大きいと、大きいのかなというところがございます。

次のページになりますが、中学校になります。

昨年度末で篠山中中学校が閉校となりまして、現在3校です。令和8年度においては、御荘中学校が162名、城辺中学校が112名、一本松中学校59名の、333名でございます。

同様に、4年後の令和12年になりますと、御荘中学校が128名、城辺中学校が85名、一本松中学校が53名ということで、合計266名ということで、67人の減になるということです。これを見ると、比較的、一本松中学校の生徒数の動きはそんなにないのですけれども、城辺中学校と御荘中学校のほうでやっぱり大きく減少してくるということになります。

なお、資料にはないのですけれども、学校の将来的な、学校の在り方については御承知のとおり、現在、学校の未来検討委員会のほうで協議が始まっております。ちょうど今日の夜、第3回の検討委員会が開催される場所ですので、また、その会議の内容等については会議録で順次、公開していきたいと思いますので、またそちらのほうも御覧いただければと思います。

学校教育課のほうからは以上でございます。

○**鷹野委員長** ありがとうございます。今、小中学校の今後の児童数の説明がありました。何か御質問等ありませんでしょうか。

金繁委員。

○金繁委員 ありがとうございます。数字なんですけれども、このうち、このうちというかまあ、ここに入っているかが分からないのですが、不登校の子供の数も教えていただけたらと思います。

比較的、大きな学校には行けないけれども、小規模校なら行けるようになったとって転校している事例も、まあ時々あるみたいなので、今後の、どんな学校をつくっていくか、残すかという意味でも、その不登校の子たちの数も合わせて教えてください。

○鷹野委員長 学校教育課長。

○坂本学校教育課長 ちょっと今、正確な数字は持ち合わせておりませんので、また後で、こちらの資料で添付したいと思いますが、不登校の数については、コロナを境に増えています。コロナ前は町全体で恐らく多分8人とか一桁だったんですけれども、その後やっぱり増えて、私の記憶では多分20人前後は、年間、いたのではないかという記憶をしております。

以上です。

○鷹野委員長 ほかに何か御質問等はありませんか。

金繁委員。

○金繁委員 それから、今、未来の学校の検討委員会、今日が2回目ですかね、ということで、3回目か、1回目の委員会の中で、特色ある学校も調べてみたいといった委員の御意見があったんですけれども、この前、本会議の中でもちらっと触れさせていただいたのですが、それについては、進捗というか、ありますか。何か調べたりとか、委員会の中で話し合われたりとか。

○鷹野委員長 坂本課長。

○坂本学校教育課長 まだ具体的に議論は進んでないのですが、まずは、第2回の前回の会議の中で、一応、会議の総意として、アンケート調査ですね、地域の皆さんであるとか、保護者であるとか、生徒であるとか高校生にアンケート調査をするということになっておりまして、今日の会議でそのアンケート内容の、質問の内容の精査を委員の皆さんに行っていただくという予定にはなっておりますが、まだ金繁議員が言われたように、特色のある学校を具体的にじゃあどうしようというのは多分、これからの議論になろうかと思います。

以上です。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 ありがとうございます。アンケート調査をされるということで、意見を聞いてくださり、ありがとうございます。

特色ある学校づくりに関しては、今後、調査していくかということなのですが、住民の方、一般的にはそういう学校が今、全国に増えている。それから文科省自体も特認校というものをつくって、自然豊かな、本当に1学年数人の学校で、独特のカリキュラムで行える特認校というのを認めていて、そういう学校にこう、移住者がもう親子ぐるみで移住してきているという町も出てきているようですので、そういうことが一般的にはまだ知られていないと思うので、そのこともこう、知ってもらおうということも大事なかなと思います。また議論をしていただけたらと、委員会の中で、お願いします。

○鷹野委員長 ほかに何か。

まあこれはもう時代で、もう仕方ないと言えば仕方ない部分、どうやって増やすといってもその対策はなかなか難しいのですが、流れ的には人口減少、どこの地域でもそうですが、今、説明にあったとおりでございます。

何かないですか。そしたら、ないようでしたら……

(発言する者あり)

○鷹野委員長 いいですか、ほかにないですか、皆さん。生徒数の問題に関しては、いいですかね。

(「はい」と言う者あり)

○**鷹野委員長** そしたら、政策推進室のほうから資料を頂いておりますので、説明を求めます。
好岡室長。

○**好岡企画財政課政策推進室長** それでは、企画財政課政策推進室で取り組んでおります、現在の移住促進事業について御説明いたします。資料のほうを御覧いただけたらと思います。

まず、1の愛南町移住者住宅改修支援事業についてです。

本事業は、空き家バンクの登録物件のみを対象としまして、改修費用の上限400万円、家財道具の搬出費用の上限20万円を、補助率3分の2で支援するものです。

令和8年3月末現在の実績を御覧ください。

申請件数は、令和2年度、令和3年度に各1件、令和4年度はゼロ、令和5年度に1件、令和6・7年度はそれぞれ5件と、近年、増加傾向にあります。申請金額につきましても、令和6年度が約690万円、令和7年度が約606万円となっており、住宅改修需要の高まりを示しております。

2ページ目に、町のホームページに掲載しております、愛南町移住者住宅改修事業のお知らせを掲載しております。また御確認のほど、よろしくお願いいたします。

続きまして、2の移住フェア及びオンライン相談の実績についてです。

①のオンライン相談につきましては、令和3年度に2件、令和4年度に1件、令和7年度に1件となっております。対面式移住フェアにつきましては、令和4年度から参加が本格化し、令和7年度は8回開催、相談件数は139件と、過去最多となっております。宇和島圏域主催の極南予の回数につきましては、令和4・5年度に各1回実施されております。相談件数全体としては増加傾向にあり、移住への関心の高まりがうかがえます。

続きまして、3の空き家バンクの状況です。平成28年度から累計実績を御覧ください。

登録件数の合計は90件、成約件数は31件、利用者登録は106件となっております。令和7年度単体では、登録18件、成約6件、利用者登録19件と、いずれも堅調に推移しております。引き続き物件の掘り起こしと、移住希望者とのマッチングに努めてまいります。

この分は3ページ目に、ホームページに掲載しております空き家バンク登録制度のチラシ、愛南町空き家バンクに登録しませんか、を掲載しております。御確認のほど、よろしくお願い致します。

先ほどの資料に戻ります。

続きまして、4の移住者数・移住相談について御報告いたします。

平成28年度からの累計では、移住者数が522名、移住相談件数が756件に上がっております。年度別で見ますと、令和7年度の移住者数は90名と、これまでで最多となっております。相談件数も195件と大幅に増加しており、移住促進施策の確実な成果が現れているものと認識しております。

続きまして、5のおためし住宅です。

おためし住宅につきましては、現在2か所で運営しております。一本松おためし住宅1戸は、平成24年度から令和3年度にかけて6件の入居があり、うち2件は退去後に定住に結びついております。あかみず棟2戸は、令和4年度に1件、令和5年度に2件、令和7年度に4件の入居があり、うち1件が定住につながっております。おためし住宅は移住の入り口として重要な役割を果たしており、引き続き積極的な活用を促してまいります。

最後に、6のえひめ南予子育て移住促進協議会についてです。

協議会の取組といたしまして、オーダーメイド型移住体験ツアーを昨年3回実施したほか、PR映像を制作し、ユーチューブに発信を行っております。子育て世代をターゲットとした、広域的な移住促進の取組として今後の成果が期待されるところでございます。

4ページ目に、昨年度実施しましたえひめ南予子育て移住体験ツアーのチラシを掲載しております。また御確認のほど、よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

○**鷹野委員長** ありがとうございます。ただいま政策推進室長のほうから、移住に関する本町の現状の説明がありました。何か質問等あるでしょうか。

石川委員。

○**石川委員** 移住フェアとオンライン相談の2番の表と、4番の移住相談件数の数字がちょっと違うんですが、これは窓口に来られた方も含めてということになるのでしょうか。

それと、年代別の移住者数、4番なんですけど、ここ二、三年でもいいんですが、年代別で分かれば、ちょっと教えていただきたいなと。

○**鷹野委員長** 好岡室長。

○**好岡企画財政課政策推進室長** まず4番の移住相談の分は、窓口に来られた方も総数を全て数字として上げさせていただいております。

年代別は、アンケート結果のデータを拾いましたらその分が出てきますので、その分はまた改めてお示しできたらと思います。

○**鷹野委員長** よろしいですか。

ほかに。

池田委員。

○**池田委員** 移住に関する相談とか体験、いろいろな催しとかを通して、学校に関する教育、特に学校に関する質問とか要望とかはあったでしょうか。

○**鷹野委員長** 柳さん。

○**柳地域おこし協力隊** 学校に関する要望・質問というのは特段受けたことはないんですが、保育園の留学体験というのをよその市町でやっているみたいで、そういうのはありますかというのを、質問を受けたことはございます。

○**鷹野委員長** いいですかね。

ほかに何か御質問ありますか。

吉田委員。

○**吉田委員** 空き家バンクの登録のほうなんですけれども、これ今、宅建協会ですかね、地元の不動産業者と提携して、大分活性化してきていると思うのですが、さらなる、まだちょっと地図にも全然そういう連携のところが出ていないような、空き家バンク登録フロー図のところの、これは仲介で入るということでしたよね、宅建業者、地元の不動産業者ですね。そこで大分成約ができているのと、直接、不動産業者にも問合せの連絡等々が来ていますので、そこら辺はもうちょっと、フロー図も含めて、しっかりした不動産業者との提携によって、空き家バンクについても登録件数、それからその後の成約についてもきちっとしていますよという体制強化というか、それはしていかなければまずいのではないかなと思うのですが、全然変わっていないので、登録しませんかの。たしか入っていますよね、今、不動産業者が、どこかの段階で、不動産業者のほうから見学等を行っている形になっていますよね。ここは早急に、せっかく活性化していますので、変えていただければ少し安心感も出てくるんじゃないかなというふうに思いますので、ここもぜひ積極的に。

で、今どっちにしても住宅が非常に少ない状態ですよ、愛南町につきましては。一戸建を借りたい人もなかなか借りられないという状況になっていますので、そこについてもぜひ、空き家バンク登録件数を増やしながら移住に備える形も取っていただきたいと。

それから、今、海外——外国の方が結構、今、就労で来ていると思うのですが、そこについてもやっぱり、住居がなくて、なかなか踏み切っていないというふうな現状も多分あると思いますので、ここもうまくその空き家バンクを改修しながら、もしくは、教員住宅も我々、見学に回りましたが、大分活性化できていないというか、使えるところがあるんですよ。この辺も早く一般物件に変更していただいて、せっかく推進ができたので、推進課のほうでそ

こも積極的にしながら、おためし住宅なのかもしくは賃貸で、十分貸せると思いますので、そこもちょっと積極的にやっていただければ移住促進につながっていくんじゃないかなというふうな気がしますので、ぜひ推進課のほうに大いに期待していますので、その辺もきちっとやっていただきたいと思いますのですが、現状は結構増えていますよね。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 今、こちらに来ていただいている地域おこし協力隊の柳さんが、やっぱり現地のほうに赴きまして、いろいろ地元の中での情報等を集めて、掘り起こし活動を進めてもらっております。それで登録件数も幾らかずつ増えてきておりますので、今年2年目になりますので、その辺りもちょっと強気に頑張っていこうと思っております。

以上です。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 愛南町の空き家の数に多分比較して、今の同僚議員の質問も同じような関じになるとは思うのですが、空き家バンクの登録件数と、愛南町が持っている空き家、比率からいったら全然少ないような気がしてまして、多分、都心とか、町外におられて不動産を持たれている方が多いのではないかなというように思います。親から相続して、町外に在住されていると、そういう観点からすると、税務課と連携して、固定資産税を納めるときに、この空き家バンクに登録しませんかのパンフレットを1枚入れるとか、何かそんなことを工夫すれば、私は爆発的に増えるのではないかなという気がするのですが、その辺りの考えはどうか。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 今、税情報とかも連動して動けるように少しずつ緩やかになってきておりますので、その辺は今ちょうど考えて、そういう情報収集とか、周知・PRをちょっと今考えている状況です。

○鷹野委員長 柳さん、補足よろしいでしょうか。

○柳地域おこし協力隊 固定資産税の納付書がございますが、従前、はがきの形態だと聞いています。今年度に関しては封筒になりましたので、そこに、町外の方に関しては空き家バンクのチラシを配布いたしました。それに関して、今年度から電話による問合せが数件、既に来ております、空き家バンクについて教えていただきたいということで、成果が出てきていると思っています。ちょっとまだ集計はしておりません。

以上です。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 そこまでできていたら、後は、固定資産を持たれている方からの電話相談だけじゃなくて、こちらから積極的なアプローチをすれば、私はもうこれ爆発的に、ポテンシャルがあるんですから、空き家がかなりありますから、そういう意味では、そのところに力を積極的に入れていただいて、空き家バンクが増えれば選択肢が、当然、移住者の方にも、これだけ相談件数が来ているのですから、満足がいくような物件を提供できるというような形になって、移住者も増えていくんじゃないかなというふうに思います。

○鷹野委員長 ほかにありますか。

金繁委員。

○金繁委員 この空き家バンクで、その空き家をすぐ買うということはなかなか難しいかと思うのですが、なのでおためし住宅を準備していただいて、今2か所あるんですけど、こちらの利用状況というのはどうですか。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 おためし住宅の実績なんですけれども、令和7年度実績といたしまして4件、おためし住宅を使ってもらっています。関西の人が2件と、あと静岡・兵庫のほうで1件ずつ、昨年度は4件、おためし住宅を利用していただいております。いろいろちょっ

と、問合せ等もあるんですけれども、重なった時期があるとちょっとそこは調整とかが必要になってきますので。

以上です。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 ありがとうございます。数的にはあんまり多くない、そろえている、準備している部屋数に比べて少ないかなと、重なるときは重なるのでしょうか。広報活動とかは、うちのウェブに載せるだけじゃなくて、もっとこう、全国に発信みたいなことはされているのですか。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 今は愛南町のホームページに情報を載せているだけの状況になっております。

○鷹野委員長 いいですか。

ほかに。

金繁委員。

○金繁委員 ぜひ、いろいろなところで、いろいろな情報にリンクしてもらうようにして、まずはお試しをみたい、空き家バンクのページにももちろん、まずはこちらからみたいのを、されているかもしれませんが、移住フェアのときにもどンドンと情報を発信、まあされているかもしれませんが、全国的に出してはいかがでしょうか。田舎で暮らしたいという人が本当に増えているようなので、お願いします。

それと、先ほど議長もおっしゃられていたその、教員の空き家住宅なんですけど、あの委員会の報告の後、どのような動きがありますでしょうか。

○鷹野委員長 坂本課長。

○坂本学校教育課長 先ほど吉田委員の御質問の際にちょっと補足しようかと思っただけなんですけど、実は昨年度この委員会のほうで、教員住宅と閉校施設を見てもらったと思うのですが、そのときの御提案の中で、教員住宅が使えるものなのかそうでないものなのか、まずはそういう調査をなささいという御意見だったかと思います。

それを受けまして、今度の6月補正予算で、教員住宅の物件調査費を計上させてもらっています。それで、もし予算が通ればそれで、ある程度、使える教員住宅、改修すれば使えますとか、ちょっとやはりこれは使用に耐えませんかとかというのが判明すると思うので、それが分かればまた政策推進室のほうと情報共有をして、その教員住宅をまあ、例えばおためし住宅として使うのかとか、いろいろなやり方はあるかと思っておりますので、まずは学校教育課のほうで、一次調査の予算は計上させていただいているというところであります。

以上です。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 分かりました。その際じゃあ普通財産に移すタイミングというのは、その結果が出てからになるのですかね。そこでの判断は教育委員会事務局がされるんですか。

○鷹野委員長 坂本課長。

○坂本学校教育課長 まず教育委員会のほうで調査をしまして、その結果が出て、先ほど申し上げましたように、例えば3棟使えますよというような結果になれば、そこを情報共有して、そこをどう使いましょうかというのは内部協議をさせていただいて、それで政策のほうで使いますとなれば、そこで行政財産から普通財産のほうに移管になるのかなというちょっと私はイメージを持っております。

以上です。

○鷹野委員長 ほかに。

石川委員。

○石川委員 おためし住宅の、お試ししてからの移住につながっている件数の比率が低いというこ

とで、このおためし住宅に入る前と後で、退去する際に、定住しなかった理由とか、愛南町に関してのその、まあクレームじゃないですけど要望とか、そういうのをきっちり、このおためし住宅に入られた方の意見を吸い上げているのかどうなのか。それをまた今度、新しい施策に生かしているのかどうなのか。そこの辺りをちょっとお聞かせください。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 退去のときに、一応アンケートというか、そういう資料を頂いて、どういうイメージでしたかというのは取っておりますので、その辺の意見を基に、今後の町の移住状況の促進については、反映はさせていこうと考えています。

以上です。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 その中で、まあ二、三でもいいんですが、こういう理由で移住しなかったという理由が二、三あればちょっと教えていただきたいのですが。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 愛南町、ネット環境で仕事をされる方は、いろいろと、愛南町でも、こちらでも関係なく仕事ができる方がいらっしゃるのですが、仕事をしないといけない方々についてはちょっとそこのマッチングが、いいようなのがなかったとか、そういう意見もありましたので、ちょっと、この辺がやっぱりおためし住宅の意義かなと思いますので、そういうところの意見はありました。

以上です。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 私、森林組合の監事もしてまして、森林組合も募集をかけているのですが、なかなか集まらないということで、役場のほうにも何度かお願いには行っているというような話がありますので、セットで、職業とおためし住宅をセットで紹介する、入居前に、そういうこともやっていただければ、地域の雇用不足も解消されるんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひそのネット以外で、仕事も探さないといかんという人が大半だと思うんですよ。だからそういう意味では、地元の雇用とおためし住宅をセットにしたような形で紹介できるような形にいただければと思いますがいかがですか。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 その辺りの情報提供も進めていきたいと思います。

以上です。

○鷹野委員長 ほかに何かありますか。

池田委員。

○池田委員 さっきの質問の続きなんですが、すみません、さっき言うとなったらよかった。子育て世帯の方が移住の相談とか体験に来られたときに、そしたら向こうから、学校に関するとか、教育に関するとかの要望とかは出なかった、なかったということですが、積極的にそういう情報も仕入れてもらったら、連携してもらったら、お互いにいいんじゃないかと思います。

それともう一つ、すみません、聞き逃しとったかもしれんですが、多分聞き逃しとったんやろうと。南予子育て移住体験ツアーというのがありますよね、それ、愛南町を対象にされた方はいないということですかね、あるんですか。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 このえひめ南予子育て移住促進協議会が南予9市町での協議会になっておりまして、ちょっとここに体験ツアー3回と載せていただいておりますが、愛南町に来ていただいた方が3組ということで、実績を載せさせていただいております。

本当はもう1組あったんですけども、ちょっと日程の都合がつかせんで、ちょっとその1組がキャンセルとなりましたので、愛南町に興味を持たれる方は4件あったということで報

告させていただきます。

以上です。

○鷹野委員長 ほかに何かありますか。

金繁委員。

○金繁委員 愛南町が移住にどれくらい力を入れているのか、まあこれから力を入れようとされて、体制を整えていらっしゃると思うのですが、今年度ウェブを改訂する予算も取って、大分変わるのかなと期待しているんですが、例えばその、愛南町のトップページの、くらしのトップページを見たときに、移住しようかなと思った人が、どこから入っていいのかが分からない状況ではないかと思うんですね。「引越・住まい」という項目があるのですが、それをクリックしたらだっとその新着順に出てくるのですよね、いろいろな情報が。なので、移住がとっても成功している、多く来てくれている町とかはやっぱ、もっとこうフレンドリーな人の顔写真とかのバナーで移住、移住情報こちらみたいなの、四万十町にいらっしゃいませんかとかいう、ごめんなさい、どこどこ町、うちの町に来られませんかみたいなバナーとかをばんと、見えるところに置いていたりするのですが、そういうことは今、検討されていますか。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 すみません、今、トップページのバナーもいっぱいありまして、なかなかそこからは多分、なかなか入りにくいところもあると思うので、今年ホームページの改修がありますので、その辺も考慮して、入りやすいというか、見やすいところを考えていこうと思います。

以上です。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 すみません、細かいんですけど、その際に、当然されると思うんですけど、さっき言ったみたいにその、移住なら移住で成功している町のホームページとかを複数チェックして、みんなで検討して、まあつくられると思うんですけど、ぜひチームで検討していただけたらと思います。お願いします。

○鷹野委員長 ほかにありますか。

田中副委員長。

○田中副委員長 金繁委員がちょっと前に話されたことなんですけど、チラシ等をいろいろこうプロモーションしていく上で、ふるさと納税の返礼品というので、愛南町から大体24万件ぐらい返礼品を送っているわけなんですけど、その中にチラシとかいうのを今まで入れていたりとかはしていますか。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 今まではないですね。

○鷹野委員長 その手があったね。

田中副委員長。

○田中副委員長 有効だと思うので、私もちょっとかんきつ農家で働いていたときに、返礼品にいろいろチラシを入れていたんですけど、移住・定住、移住とかもちろんですけど、いろいろな情報というのは愛南町、よそから来てほしいとかということはあると思うので、これに限ったことではないと思うんですけど、そこら辺は町全体で精査して、愛南町からのお知らせを分かりやすく伝えるみたいな感じでやられればいいんじゃないかなと思うので、ぜひ検討をお願いします。

以上です。

○鷹野委員長 池田委員。

○池田委員 前、徳島県の三好市に、学校施設の利活用で行ったときに、ちょっと数字は忘れたのですが、千単位で企業に案内を出して、返ってきたのが数件という話だったんです。だから、

それぐらい宣伝というかあれをせんと、なかなか、集めるというのは難しいということで、数の勝負だと思いますので、本当いい意見だと思います。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 関連で、すごくいいアイデアが出てきたなと思って、その一つとして言わせてもらいますが、ふるさと納税に情報を入れさせてもらうというのは本当に大事だと思います。

それで、お聞きしたいのは、愛南町は関係人口を増やしていくということを努力されていると思うんですけど、その関係構築、もっと密に、もっとこう、協力とか、コミットしてもらえ人に育てていく、関係を、構築していくというストラテジーというか戦略もやっぱりつくっていかないといけないと思うんですね。それをつくっていらっしゃるかどうかが、その担当部署はどこかというところ、やっぱり商工観光課とも連携しないといけないですし、まだできていないような印象は受けていたのですが、ぜひ、いろいろな室もできたので、横連携して考えていただきたいと、現状を教えていただきたいのと、それから先ほど出てきたその、ふるさと納税で買ってくれた人というのは、企業のマーケティングでいうウオームリストなんですね、温かいリスト、いろいろな可能性を秘めている人たちで、既にもうコンタクトがある人たちですよね、関心を持って。その人たちをどう、その組織との関係を高めていくかという戦略を企業はつくっていくんですけど、一方で今、池田議員がおっしゃった、私たちが視察してきた三好市の、企業のDMとかに入れてもらうようなやり方というのはコールドリストといって、全くこう、団体とまだコンタクトがないリストで、この方たちの反応率ってもう全く違うんですね、ウオームリストと。その先の関係構築も全く違ってくるので、まずはウオームリストに集中して、関係構築をしていくことがすごく大事だと、まあマーケティングの知識なのですが、ぜひそこに今後力を入れていただきたいと思うのですが、最初に戻って、現状とお考えをお聞かせください。

○鷹野委員長 好岡室長。

○好岡企画財政課政策推進室長 いろいろ交流人口の投下については各課いろいろ対策は取っているのですが、その横連携ということは今のところまだなっていないと思いますので、交流人口、交流する方との深化をちょっとこれからも考えていきたいと思っています。

以上です。

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 ちょっと思いついたのですが、子育て移住体験ツアー、これは南予でやられたのかもしれませんが、補助をつけて、これをもう愛南町自身で、ふるさと納税の返礼品として、商品としてパッケージを組んだら、私はかなり、補助も出さなくていいし、3者に取ってウィン・ウィンになるのではないかなという気がします。一度検討するお考えはないでしょうか。

○鷹野委員長 あかね、実際、ちょっといいですか、実際、私のいとこ、今度トライアスロンに出るのですが、これ、ふるさと納税の返礼品のあれにあったんですよ。ふるさと納税でトライアスロン、来るようになっています。その辺もじゃあ検討をお願いいたします。

吉田委員。

○吉田委員 それと、多分あると思うのですが、愛南町は幸福度ランキング、愛媛県の中でも上位ということで、これは助成を含めて、相当優れていると思うんですね。18歳まで医療の無料化とか、様々な面で、まあ住宅のさっきの件もありますので、ここは推進室のほうで連携を取って、ふるさと納税をしているところも、個人的に、今度南宇和高校が全国募集するようになりましたよというチラシをつくって、ふるさと納税の中に入れて送っている人たちもいるんですね。そういうところもやっぱり連携しながらやるのが一番だし、推進室ができましたのでそこはぜひやっていただきたいのと、やっぱり愛南町のプロモーションビデオがないじゃないですか今、観光アピールを含めて、ないですよ。過去にはいっぱいあったんですけども、ほとんど今はつくっていないので。

（「御当地ソングもないな」と言う者あり）

○吉田委員 御当地ソングは要らんけど、まあまあプロモーションビデオもぜひ推進室のほうで推進しながら、そういうプロモーションビデオも必要、短い3分くらいでも構わないので、やっぱりプロモーションビデオも一つ必要なのかなというように思います。そこをぜひ、幸福度ランキング1位ですから、そこは本当に、何もなければいい町だと思いますので、そこはぜひ積極的にアピールをしてもらいたいなど。

まず第一、やっぱり空き家というか住宅なんですよ、住環境が全くないということで、これは通常の転勤者の方も困っている問題もあって、まして移住者の方なんてとてもじゃないけど住宅環境が全くできていないので、そこは本当に先ほどの教員住宅のあれも含めて、全体として推進室が推進すべき事項だと思いますので、ぜひやっていただきたいというふうに思います。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 いろいろアイデアが出てきて、いいなと思います。御当地ビデオは確かに、少ないですよ。ほかの町で人気のところというのは、この近所でも、小さな町でも、やっぱり芸能人を使って高いお金を使うのではなくて、やっぱりその自然にフィーチャーして、ドローンとかで本当に雄大な自然を見せたりとか、しています。やっぱり都会の人が憧れるというのは、特に今自然だと思うので、その辺はちゃんと調査してほしいですけども、やっぱりそれに、そういう関心に対応できる、私たちがよかれと思って、愛南町の住人がよかれと思ってじゃなくて、やっぱり外の人が見て、愛南町ってすごいな、行ってみたい、暮らしてみたいと思うようなビデオを、調査して、ぜひつくっていただけたらと私も思います。

○鷹野委員長 はい、ほかに。

金繁委員。

○金繁委員 その際に、また横連携なんですけど、海業推進ということで、町のほうも一定のお金を使って、観光業もということでやっていますので、そこはやっぱりばらばらではなくて、ぜひ連携してやっていただけたらと思います。

○鷹野委員長 ほかに何かありますか。

（「なし」と言う者あり）

○鷹野委員長 ないようでしたら、説明員の、を終わりたいと思います。

あと、一つ、先ほどちょっと出た学校教育の、我々、所管事務調査の結果で、西海中学校の件、結構大きな問題、あの点はどうなっているのかちょっと、最後にお聞きします。

○坂本学校教育課長 旧西海中学校なんですけど、昨年度の視察の際に、防災の拠点にもなっているということで、中身の整理をというお話があったかと思います。その後、備品が各1階・2階・3階にそれぞれあるのですけど、うちのほうで施設係を中心に策を練っていますが、取りあえず備品については、利用できる備品についてはまた近々、町民の皆さんを対象にしたオークションを開催する予定です。まず先に旧福浦中学校の売払いのオークションを、今度の6月から7月にかけてもうやることは決まっていますのですけど、その後にちょっと西海中学校もやりたいと考えています。

あと、御覧いただいた中で、トライアスロンの看板であるとか資材があったかと思うんですが、これもちょうと検討中なんですけど、これは生涯学習課の所管になるのですけれども、どうしてもやっぱりトライアスロンの資材はかなりたくさんありまして、やはり一番会場に近いどこかで保管するのが一番ベストなんですけど、どこかに持っていくとなると、なかなかその置き場所もないというのが現実です。なので、希望としては、トライアスロンの資材は職員室を中心に置いておったと思うのですけど、ちょっとそちらに、職員室の部分についてはそういうトライアスロン関係の資材置場として、まあ当然整理して保管はするのですけれども、そこでそういう御相談はさせていただけないかなとは思っています。校舎のほうについては適宜、また防災対策課とも協議して、早い段階で、中の不要な机とか椅子は処分する必要があると思って

います。

あわせて、校舎側の玄関のほうに、棒高跳びのマットが2つほどあったかと思うんですけど、あれも実はトライアスロン大会のときの、自転車競技の防護対策として県道の壁につけていまして、ちょっとあれも要るんですけど、これも持って行き先、置き先もちょっと現状ないというところで今、頭を悩ませているというところなので、またそこは生涯学習課とも協議を進めさせて、どうするか、差し当たって6月の頭に大会があるので、その後の整理をどうするかというのはまた早急に考えていきたいと思いますので、現状はあのとおりです。

○鷹野委員長　そういうことです。

一言。はい。

○吉田委員　内海中学の件と違って、たくさん行きますから、1日でばつとできると思うんですよ。今回、議員も行きますから、片づけについては、西海はね。だから早急にこれをしていただいて、福浦も行きますから。また言ってくれば、どんどんやりましょう。

○鷹野委員長　池田委員。

○池田委員　職員室を使うのも大いに結構なんですけど、それ、避難所の運営というのをちゃんと考えてもらわんと、その近いところに置く、トライアスロンのあれも大事なんですけど、まずは倉庫やないのやけん、トライアスロンの資材置場やないのやけん、指定避難所というのが第一やと思いますので、その辺はちょっと無理なことを言うようなんやけど、ちょっとその辺はよく考えて、運営に支障がないようにはしていただきたいと思います。近いところが一番いいのはいいんですけど、近いところでもどうせ運搬せないけんので、そこら辺は、第一はやっぱ避難所としてのあれを検討してもらったらと思います。運営に支障がないというのだったら、もうそれはそれで結構やと思いますけど、その辺は十分をお願いします。

○鷹野委員長　その辺はまたお願いします。

金繁委員。

○金繁委員　その辺は防災対策課とか地域の方が、この部屋をどう使いたいとか、決められると思うんですけど、その辺とは連携されてやられているんですよね。

○坂本学校教育課長　今からにはなるんですけど、まずはうちのほうで、中身については。

○鷹野委員長　ということで、また。そしたら学校教育課もこの後、会議があるということなので、今日は学校教育課、また政策推進室の皆さん、また協力隊の柳さん、ありがとうございました。それでは退席のほう、よろしくお願いいたします。

(執行部退席)

○鷹野委員長　暫時休憩はいいですか。続けてやります。休憩する。

(発言する者あり)

○鷹野委員長　そのままやります。

そしたら、続きまして、今後、どうするかということですね。今の説明員の話はもう移住に関しての話でした。また、ちょっと我々が求めているテーマとはちょっとまた違う部分もあるかとは思いますが、今の机上調査を含めて、今後どうやっていくか。皆さんの考えをお聞かせ願いたいと思います。

池田委員。

○池田委員　視察研修の。

○鷹野委員長　今後、もっとここを調査・研究したほうがいいとか、それを含めての視察研修が必要だとか、その辺を含めてお願いいたします。

○池田委員　昨日、全協で、島根県の海士町も対象に入っておるので、これは高校の魅力化となっておるのでちょっと、やけど参考にはなると思うので、一緒にしたらどうやろうかという意見です。

○鷹野委員長　金繁委員。

○金繁委員 私は、海士町も見に行きたいのですが、やはりその高校と、それから小中学校、義務教育でどういことをすれば、外からも人が来てくれて、そして地元の高校にも行ってくれるかという、また、義務教育の部分ってまた違って魅力が必要かと思います。例えばその今、先ほど言ったような、自然豊かな小規模特認校のようなところが今、文科省も認めて、移住者が増えているというところもあるので、ぜひその、小中学校教育として、どういう学校が今選ばれているのか、移住者が増えているのかというところを調査・研究して、視察できたらなと思います。

○鷹野委員長 ほかにありますか。
中野委員。

○中野委員 これ今の話も出ましたが、これ1回、もうそのまま今日という、決めるわけにもいかないので、まあ皆さんいろいろ調べられて、あれだから、こういう候補地はどうですかといって、もう一回集まって、そのときにその中から選ぶとかという形にせんと、今日で、あそこがいい、ここがいいと、決まらんと思うので、やっぱり候補地を何件か、委員長を筆頭に出してもらって、事務局も含めて、候補地を出してもらって、もう一回。

○鷹野委員長 そしたら、今後、視察研修をするという方向でよろしいでしょうか。
(発言する者あり)

○鷹野委員長 石川委員。

○石川委員 考え方なんですけど、移住をメインにして、それにひっつけて親子留学なのか、親子留学をメインにして、附屬的に移住につなげて、ひいては南宇和高校まで行っていただけるような流れにするか、この2つだと思うんですよ、論点は。だからそれで、選択をどうするかということになろうかと思うので、私はこの親子留学をメインに考えて、移住とその先にある南宇和高校への入学、この一連の流れを、検討するに値する視察を。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 小中学校の子供たちが増えなければ、結局、南宇和高校に行く地元の子も少なくなる一方なので、やっぱり私は小中学校、まさに今、統合の話も委員会で着々と進んでいて、年内には一定の結論が出るというところなので、やっぱり私たちが視察して、いいところというのもぜひその秋頃までに、教育委員会のほうにも伝えられるような形にしたほうが、将来のためにもメリットは大きいんじゃないかなと思ひまして、私は、石川議員のおっしゃった2番目の、後のほうの、だから教育、小中学校教育を中心として、どういう学校にすれば移住者が増えるのかという、学校の魅力のほうを中心に学べたらなと思います。

○鷹野委員長 ほかにあります。

今、移住を含めた親子留学ということで、要は、学校環境なんですよね。学校の魅力化。これも南宇和高校と同じような、そういう学校の魅力、その学校環境がよかったら人が集まってくる、そういった先進地を視察すればという意見でよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 そしたら、その辺の候補地を、委員の皆さん、また担当課、学校教育ないし政策推進室、またちょっとこれ学校教育と、あれなんだけど、ちょっと調べて、その辺を持ち寄って先進地視察を考えるという方向でよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 そしたら、次回……
中野委員。

○中野委員 ちょっとあの、あんまり2泊とか3泊とかにならんように、1泊で行けるようなところを候補地のほうにさせていただいたらと思うので。あんまり委員会で2泊、3泊というのはという思いもありますので。

○鷹野委員長 予算もないけん。

○中野委員 予算の加減もありますし、ぜひその辺り、配慮していただけたらと思います。

○鷹野委員長 そういうことで、そしたら委員の皆さんも、ちょっとその辺、こういうところへ行ってみたいということがありましたらちょっと、個人的に研究して。

次、いつ頃、いつ、協議会を、委員会を開きましょうか。

事務局長。

○土居事務局長 活発な御議論ありがとうございます。

次回の委員会の開催ということなんですが、皆さん御存じのとおり、6月定例会もうすぐということになっております。先ほどの皆様からの御協議・御提案を整理いたしますと、先進地の視察に行かれるということですが、それについては多分、6月定例会以後になろうかと思えます。

従前、常任委員会における所管事務調査の進め方を参考資料として事務局がスケジュール案をお示ししたところなのですが、大体、今そのスケジュール案どおりに進んでいるのではないかと考えております。6月定例会のうちに、例えば先ほど言った先進地視察の候補地等を各委員の皆様から御提案いただいた後に、次回の委員会を開催し、それから後の先進地視察先へのアプローチとなりますので、次回委員会については、どういたしましょうか、今日決めますか。それとも候補地・候補日のある程度示して、御都合の合う日に開催するみたいな形でもいいですけど。

イメージとしては、どうなんでしょう、先進地視察をした後にその成果をまとめたの、執行部への提言なり委員長報告になろうかと思うのですが、なかなかスケジュール的にやはり9月定例会での委員会報告は厳しいのかなというふうに事務局としては考えますけど、そこまでのイメージはまだ持たれていないですか。

○鷹野委員長 金繁委員。

○金繁委員 今、ちょうど学校の未来の在り方検討会が進んでいまして、これはもう年内に結論を一応出してしまうので、やはりその前に議会としての提言を出し、検討していただくという意味では、やっぱり9月議会に出さないといけないのかなと。今まで、3か月ごとに委員会をするぐらい、テーマを変えるぐらい迅速にやっていた面もあるので、今回に関しては予算を待つて提言するというようなものではなく、やっぱり今進行している、未来の学校の在り方を考えるということと議会が並行して、提言できるような形にするほうが、委員会の調査・研究として意義が大きいのかなと思いますので、まあ9月でも、できれば9月に出したほうがいいと私は思います。

○鷹野委員長 9月定例に結果を出す。

石川委員。

○石川委員 今、金繁委員のほうから日程を、9月に委員長報告を出すということであれば、逆算していけばもうほぼ日程が決まってくると思うので、逆に、事務局のほうに、それに合うような形の日程と、次回の委員会を含めて、どういう形でまとめて。少なくとも8月の頭に、もうまとまっていないと無理なんですよ。9月に出そうとしたら。ということは、視察は7月にしないと。ということは、7月の頭にしたとすると、6月の頭には決めていないと、受入れの方も1か月ぐらいいないと多分、受入れをしていただけないんじゃないかなと。ということは逆算していくと、来週、ほぼほぼ、どこにするかというのを決めていかないと。いかなのじゃないかなという気はしていますけど、日程感事務局いかがですか。

○鷹野委員長 事務局長。

○土居事務局長 金繁議員、石川議員の御提案ありがとうございます。

両委員の御意見からスケジュールを今確認しますと、来週の5月28日にちょうど議運がありますけど、その午後からとか、いかがでしょうか。であれば、先ほど石川委員から御提案があったスケジュールには当てはまるのかなという、ちょっとタイトなスケジュールになります

けど。

(発言する者あり)

○鷹野委員長 何曜日。木曜日。

今、5月28日、木曜日の午後からということが出ましたが、もうそれで、大体場所を決定するということでよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 そしたらそれまでに、また各委員さん、どこがいいか、またほかの推進室も関係あるのかな、もしあれだったら学校教育課、推進室の課長・室長にも行ってもらいたいというところもありますので、その辺はまた、そしたら事務局と相談して決めさせていただきます。
それでよろしいでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○鷹野委員長 その他、何かありませんか。

(「ないです」と言う者あり)

○鷹野委員長 いいですかね。

それでは、閉会の言葉をお願いいたします。

○田中副委員長 お疲れさまでした。総務文教常任委員会を終わります。

委員長